

## 平成30年度 第40回卒業証書授与式 式辞

暖かな日差しに春の訪れを感じる今日のよき日、本校第40回卒業証書授与式を挙行するにあたり、各務原市長浅野健司様はじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りましたことを、高い席からではございますが、卒業生とともに厚くお礼申し上げます。

三年生のみなさん、卒業おめでとう。

1979年 昭和54年、この地に中央中学校が創立され、ちょうど40年。10,599名の先輩たちが卒業されてきました。そして今日、274名の皆さんがその仲間入りをします。皆さんにとっての中学校三年間を振り返るとともに、新たな生活に夢と希望をもってスタートを切る、節目の時となることを願っています。

私と君たちとの生活は、4月の出会いから1年、この1年が本当にあっという間に過ぎてしまったように感じています。

体育祭、修学旅行、合唱発表会、そして伝統継承の会で見える皆さんは、時を重ねるたびに成長をし、その時々で成果をあげてきました。

学校生活に目を向けると、生徒会執行部や委員長のリーダーシップと、毎日昼の放送で語られる熱い思いに感心し、それに忘える学級・学年の姿にまた感心をしました。中央中学校の生活を、3年生が中心になって築いていると実感しました。

そんな1年間でしたが、私が特に嬉しかったこと。それは、毎朝、生徒玄関で皆さんと交わす挨拶です。笑顔でできる皆さんとの挨拶に心が和みました。また、互いに考えを出し合ったり、集中して問題に取り組んだり、授業で努力する皆さんの姿にふれることも、嬉しいことでした。

学習・生活・生徒会活動、毎日の生活の積み重ねがあったからこそ、今日が迎えられていると、改めて感じています。

卒業に際し、私から二つ話をします。

一つ目は、中央中学校での生活を、「これからの生きる土台にしてほしい」ということです。

この先、いつも順調にいくことはなく、苦しいことや辛いことにぶつかる時がきくときです。そんな時に励ましてくれるのは、過去の自分です。それは、たとえ人から見たら小さなことであっても、自分の中でやりきった、努力をしたという事実です。

前向きに学習に向かってきたこと、仲間の中で自分の役割を果たしたこと、部活動などで諦めずに練習したこと、たとえ失敗があったとしても、反省し自分を高めてきたこと、中学校3年間を歩んできた自分に、自信と誇りを持ってください。

その、自信と誇りが次に一步を踏み出す大きな力となり、たとえ苦しい時がきてもそれを乗り越える力となるのです。

二つ目は、「夢」を持つことの大切さです。

江戸時代幕末から明治時代に活躍した多くの人を育てた、吉田松陰がこんな言葉を残しています。

夢なき者に理想なし  
理想なき者に計画なし  
計画なき者に実行なし  
実行なき者に成功なし  
故に 夢なき者に成功なし

「夢」「希望」「目標」「志」色々な言い方がありますが、こんな自分になりたい、こんなことができるようになりたいと思うことが、自分づくりのスタートということです。

今、持っている夢はこの先変わることがあるかも知れませんが、将来の自分に目を向けられる皆さんでい続けてください。

最後に、保護者の皆様、お子様のご卒業、まことにおめでとうございませう。義務教育9年間を終え、中学校卒業という大きな節目を迎えられる喜びは、感慨ひとしおのことと存じます。心からお祝い申し上げます。また、3年間にわたり、本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただきましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

これから先も、子供の前に立って自分の背中を見せ、傍らに立って子供と共に歩み、後ろに立って子供を見守る、色々な形で、我が子の成長を支えていく保護者の皆様であり続けてください。

「卒業」

それは、中央中学校での生活の終わりとともに、新たな君たちの人生が始まる時です。

「夢なき者に成功なし」

卒業生の皆さん一人一人の未来に幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

平成31年3月5日

各務原市立中央中学校 校長 鈴木 英巳